

一つテンヤマダイ釣りの楽しみ方

平成 30 年 4 月 9 日

小柳正和

釣りの楽しさも人それぞれですが、釣り方も千差万別です。今回は一つテンヤでマダイを釣るという釣法で楽しもうと思っています。一つテンヤの釣り方、考え方も色々ありますが、私の経験をもとに、楽しみ方を説明します。

一つテンヤってなに？

一つテンヤとは、テンヤという仕掛けを一つだけ使ってマダイを釣るとてもシンプルな釣法です。

服装について

服装は気候によって変わってきますが、基本は変わりません。何を基準にするかと言うと「安全」「安心」か？ということです。これだけは用意しておきたいものは以下のとおりです。

帽子、サングラス(偏光レンズ)、手袋、合羽、長靴

服は着過ぎぐらいが良いです。暑かったら脱げばよいですが、寒いと我慢するしかありませんので。

道具について

最低限釣りに必要な道具は、竿、リール、仕掛け、餌です。一つテンヤを楽しむにも基本は変わりありません。しかし、より楽しむためには、道具も専用を用意したほうが良いです。

竿 : 一つテンヤ専用竿(240cm 前後)

リール : スピニングリール 3000 番

道糸 : PE0.8 号 150m

リーダー : 2.5 号 5m

このように一つテンヤ釣法は、とても細い糸でマダイを釣り上げるので、大きなマダイが掛かったときは物凄い力で糸が出ていきます(ここが楽しいところ)。その時に、リールの性能が悪いと糸切れを起こしてしまい、せっかくの大物を逃してしまう確率が高くなります。価格が高ければ良い訳ではありませんが・・・初めての方は船宿に貸竿がありますので、まずは貸竿で始めることをオススメします。購入してみようという方は経験者か釣具屋さん

相談しましょう。

その他用意しておきたいもの

クーラーボックス

60cm 以上が理想ですが、ある物で大丈夫です。帰る時に船宿で氷を入れてくれるのでそんなに高級品はいりません。

先細ラジオペンチ

魚から針を取るときに使います。

ハサミ

糸を切るときに使います。

タオル 3 枚以上

手を拭いたり、汗を拭いたり、魚をおさえたり。

酔い止め薬

気休め程度しかありませんが・・・おすすめは「アネロン」です。

飲み物

最低 1L は用意しておきましょう。

食べ物(おにぎり・パンなど)

7 時間位海上にいますのでお腹も空きます。できれば片手で食べられるものが良いです。特に大物を釣ったあとはお腹ペコペコですよ。

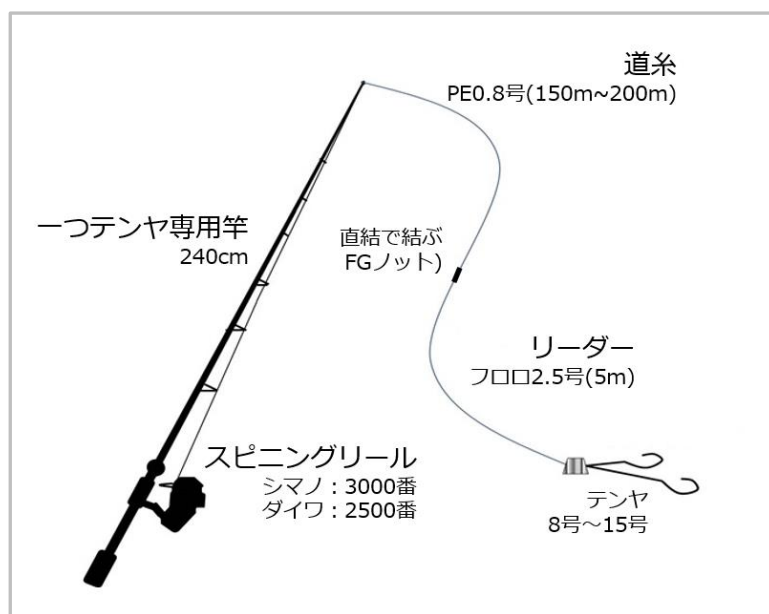
仕掛け(テンヤ)について

仕掛けには「テンヤ」を使います。一般的なテンヤはオモリに大きな針が付いていて補助として小さな針も付いています。この針に冷凍のエビを付けます。

オモリのサイズも 2 号から 20 号まで色々あります。使うサイズの決め方は、「水深÷10m」と言われていますが、初めは「水深÷5m」で考えましょう。水深 40m なら 8 号ですね。

用意するテンヤは？

答えは簡単！「色んな重さを沢山」なのですが、テンヤも 1 つ 500 円以上しますので、ある程度絞る必要があります。6 月の大原では、恐らく水深 40m～70m 付近を狙うと思われます。そうだとすれば、8 号～15 号でしょうか。また、マダイは根のある場所に居ますので、根掛かりしてテンヤが無くなることもしばしば・・・できれば、8 号、12 号、15 号を各 2,3 個ずつ用意しておくのが良いと思います。初めてテンヤを買いに行くと、テンヤの種類が多いことにビックリすると思います。形、色、重さ、なかなか決められないときは店員さんに相談しましょう。



なぜ水深によってテンヤの重さを変えるの？

一つテンヤ釣法の基本操作は、

1. ます底までテンヤを落とす。
2. 生きたエビが踊っているように底付近を大きく繰り返しシャクる。

です。一番釣れるタイミングは、テンヤが底に着いて、シャクリ始めたときと言われています。生きたエビの様に見せかけるには、オモリは軽いほうが良い。しかし、底にオモリが着いたかを確認するには重いほうが分かりやすい。考えが相反しています。経験を積むと軽い重りでも底が分かるようになってきますが、最初は中々分かりません。自分の感性に委ねて、出来るだけ軽いオモリでチャレンジしてみましょう。

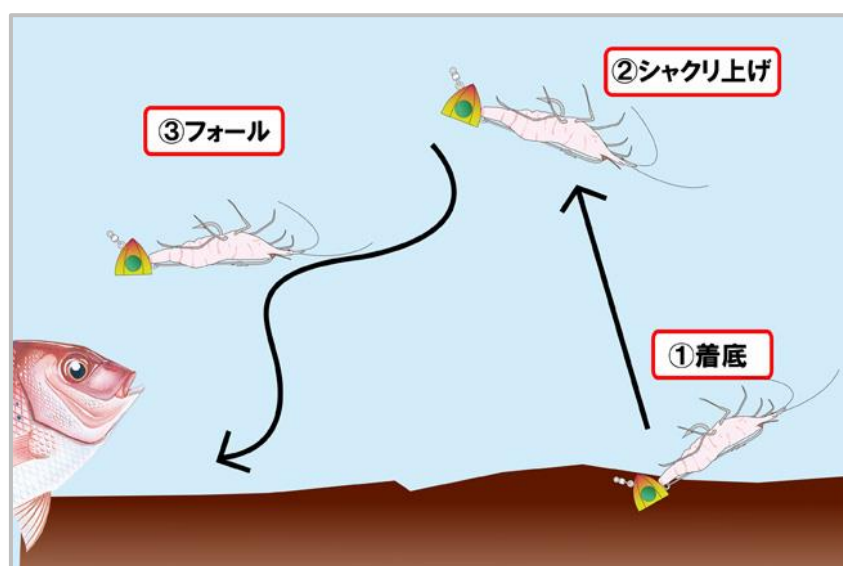
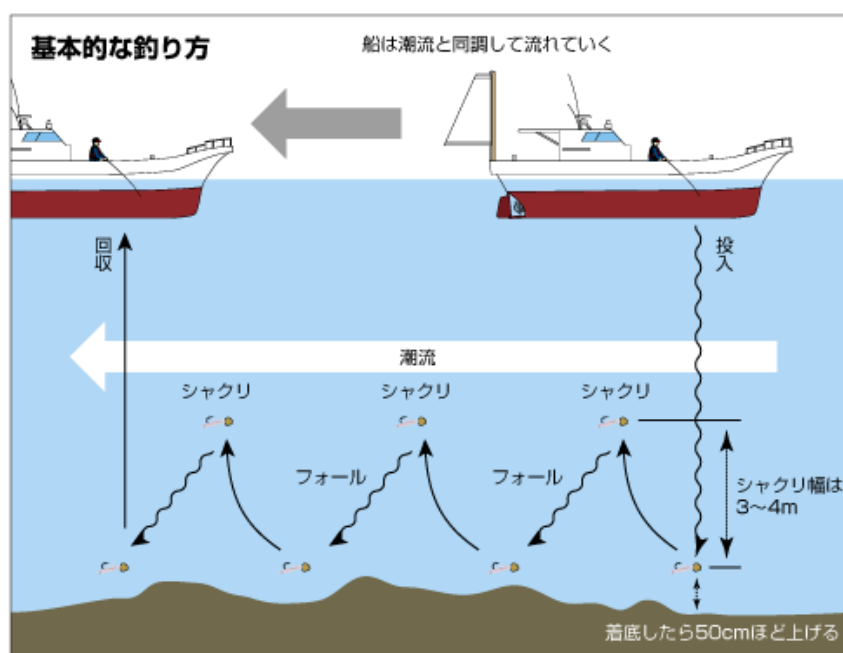
エサ(エビの付け方)

テンヤに餌をどう付けるかは色々です。大切なのは親針に対してエビを真っ直ぐ付けることです。エビが曲がっていると改定に落ちた時にテンヤがクルクル回ってしまい、糸が絡む原因にもなります。また、配られるエビは凍っていますので、釣りを始める前に海水などに漬けて解凍しておくことも忘れずに。



オモリが底に着いたのはどう判断する？

これが結構難しい・・・テンヤを落とし海底に到着したとき、竿先から海面の間で糸フケが起きます。その瞬間を見逃すと船の移動と潮の流れで糸は少しずつ出ていき、いつまで経っても底に着いたことに気付けません。合わせて覚えておきたいのが、道糸は 10m 毎に色が変わっています。ポイントに着くと船長が「43m です。」と水深を教えてくださいますので、出ていく道糸の色を確認しながら、底に到達する付近になったら集中して確認しましょう。それでもわからないときは、もっと重たいテンヤに変えてみます。



潮が早いとき

魚は潮が流れていないときは休憩タイム、潮が流れている時に活性すると言われていいます。しかし、潮が早いとテンヤと道糸も潮に流されてしまい、底が取りにくくなったり、底から徐々に浮いてしまったりします。そんな場合は面倒でも、一度回収して再度投入しましょう。この一手間が釣果として現れます。

もし根掛かりしたら？

無理に引っ張ってはいけません。最悪竿が折れてしまいます。まずは、少しだけ糸を緩めて上下左右前後に動かしてみましょ。それでも外れないときは、リールのスプール(糸が巻いてある箇所)をしっかりと手で固定し、竿と糸をできるだけ一直線にして手前に引っ張ります。テンヤを付けている箇所か、道糸とリーダーの接続箇所で切れます。残念ですがテンヤの回収は諦めましょ。道糸とリーダーの接続箇所で切れた場合は、結ぶのに技術が必要です。その様な場合は、船長を呼んで結んでもらってください。快く結んでくれます。また、持ち合わせのテンヤが足りなくなった場合も船長に相談してください。船上で販売をしてくれる場合もあります。それも出来なかった場合は、勇気を出して周りの人に相談ましょ。船上ではみんなが仲間です。借りたら返すということも忘れないように。

オマツリしたら

自分の仕掛けと隣の人の仕掛けが絡まることを「オマツリ」といいます。オマツリの原因として、潮の流れが速いせいで仕掛けが流されたり、魚がかかったとき魚が横方向に走ってしまう、などがあります。オマツリした場合は、すいませんと謝りましょ。相手によりますが、釣りを始める前に挨拶をしておけば大抵は陰悪なムードにならずにすむでしょう。

アタリがあったら

兎に角、思いっきり合わせてみましょ。マダイは上顎が硬いので、簡単には針掛かりしてくれません。合わせて針をマダイの口横の厚いところに貫通させる事が理想です。マダイが釣れると独特の動きをするのですぐに分かります。さあ、楽しみながら釣り上げましょ。

釣り上げるときの注意

マダイは根付近にいますが、根に潜ることはありませんので強引に巻き上げません。特徴としてマダイは首を振ります。「鯛の三段引き」と言われるように、「グイグイグイッ」という引きが味わえます。その時に、糸が緩んでしまうと針が外れてしまいます。兎に角同じ速度でリールを巻き上げ、逃げていくときは無理をしないことです。

魚が釣れたら

魚が釣れたら早めに「船長～」と大きな声で呼びましょう。周りの人が釣れたときも呼んであげましょう。魚が水面に上がってきた時が一番バレやすいです。たとえ小さな魚でも無理せず船長に網ですくってもらいましょう。魚が網に入ったらリールのベールを返して糸を緩めてください。船長が網から魚を出したら、まず、ペンチを使って魚から針を外し、水の入ったバケツに魚を入れます。この時、指で針を外すことは絶対にしないでください。マダイは歯が鋭く顎の力も強いので噛まれると怪我をします。魚が暴れるようならタオルで軽く魚を押さえましょう。

釣果を上げるために

船長は楽しんでもらうために魚のいるポイントを必死で探してくれます。それでもその日の潮の流れや感が当たらなくて良い釣果が出ない日もあります。たとえ釣れなくても船長を責めないようにしましょう。釣果を上げるために最も大切なことは・・・

魚の居そうな場所に餌を見せつける時間を少しでも長くする。です。休んでばかりいないで、手返し良く釣りをし続けること。これが一番の方法だと思っています。

時期にもよりますが、マダイは釣れても2～3匹だと思ってください。オデコ(全く釣れない)の時も良くあります。技術もありますが、潮の流れや運も大きく関わっています。オデコになっても決して不貞腐れることの無いようにしましょう。

安全で楽しい釣りをするために

最も大切なことは「船長の指示に絶対従う」ということです。これを守っていればほぼ安全で楽しい釣りができます。

以上